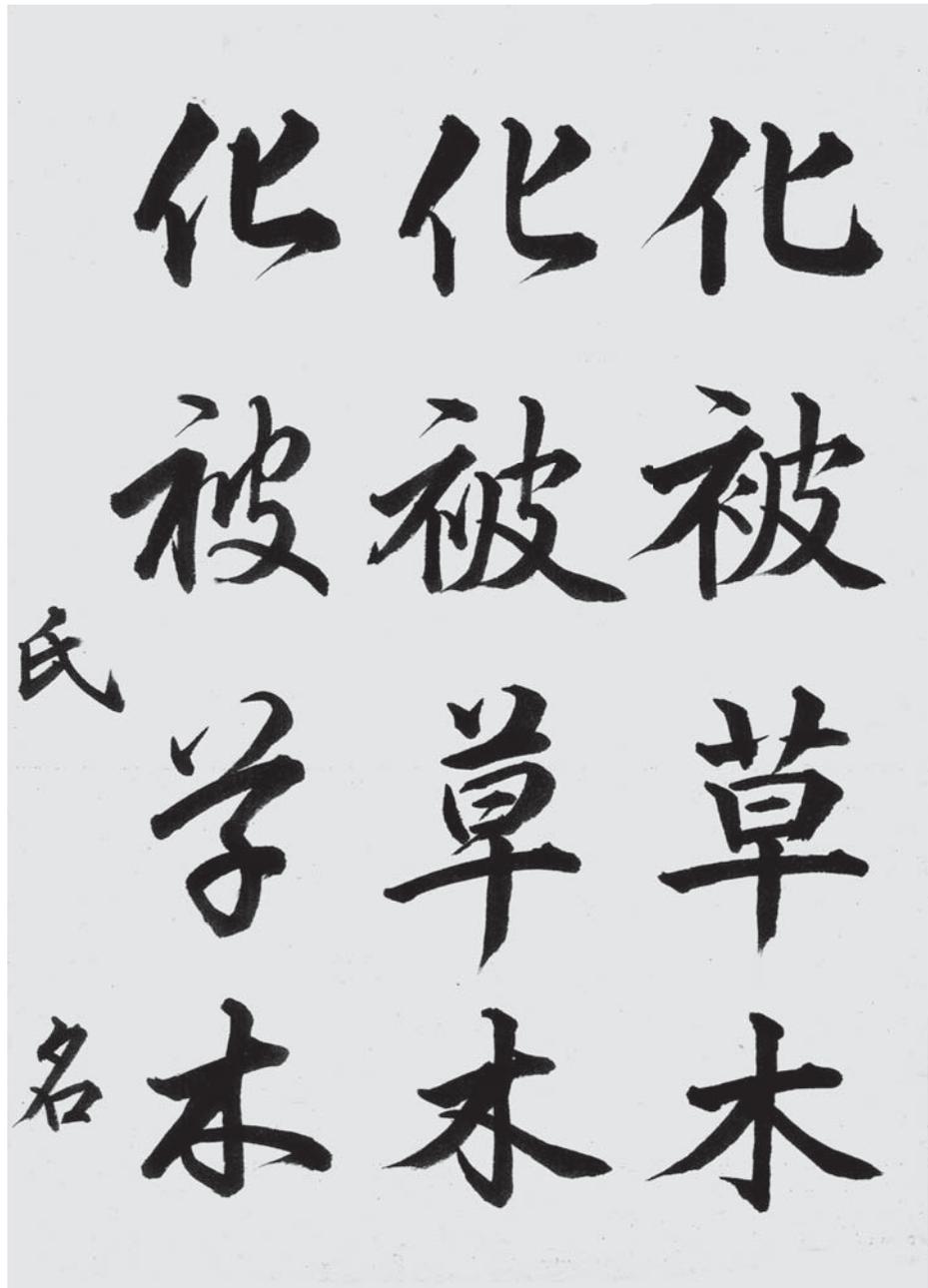


三体千字文を書く(35)

締切り 十一月二十四日(必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六

(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

化^カ被^ヒ草^{ソウ}木^{モク}
 賴^{ライ}及^{キユウ}萬^{バン}方^{ホウ}

徳化はあまなく草木におよび、王化はすべての国々に及ぶ

準初段から六段まで

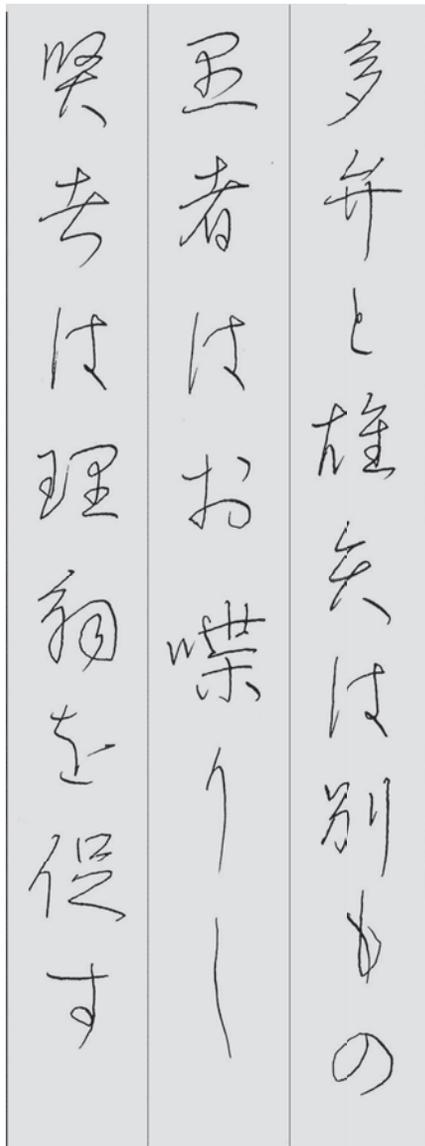
新入から1級まで

〔解説〕

〔読み〕多弁と雄弁は別もの 愚者はお喋りし 賢者は理解を促す



▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。
◎今月は行草または草書。同字もあり、字形を字典で自分の好みを選び、更に芸術性を高めて書くのも、勉強の一方法です。

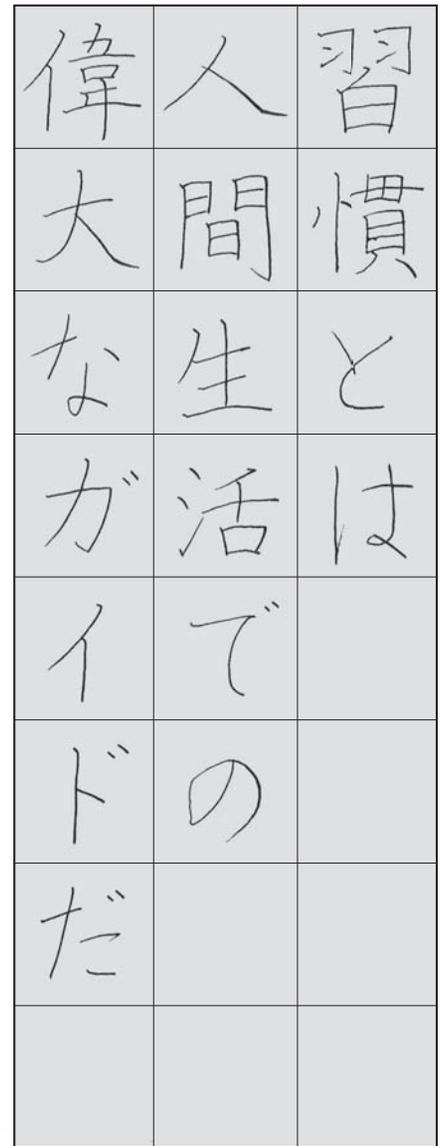


おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★習慣：(書体=楷書)

ヒューム(一七二〇一七七〇)

イギリスの経験論の哲学者

ヒュームは因果関係の議論の中で「炎が生じれば熱さが発生する」という時、炎と熱とは前者が原因となり後者が結果として発生するという形で関係し合い、この関係を因果関係と言っています。私たちの日常の習慣において、大きな指針となり役立っているといってよいでしょう。

◆12月課題予告(行書)

直観は潜在意識が

あなたに送る信号

マーフィー

★多弁と：(書体=行草または草書)

ベン・ジョンソン(一五七〇一六三〇)

イギリスの劇作家・詩人

長い時間をかけて多くのことを話しても、何を伝えたいのか理解できないことがあります。ただ話すだけで時間を費やすのは、お喋りにすぎません。相手に十分に理解してもらうためには、必要なことだけを手短かに話すこととであり、それが本当の意味での雄弁と言っています。

◆12月課題予告(楷書)

子供は五歳までに

その生涯に学ぶ

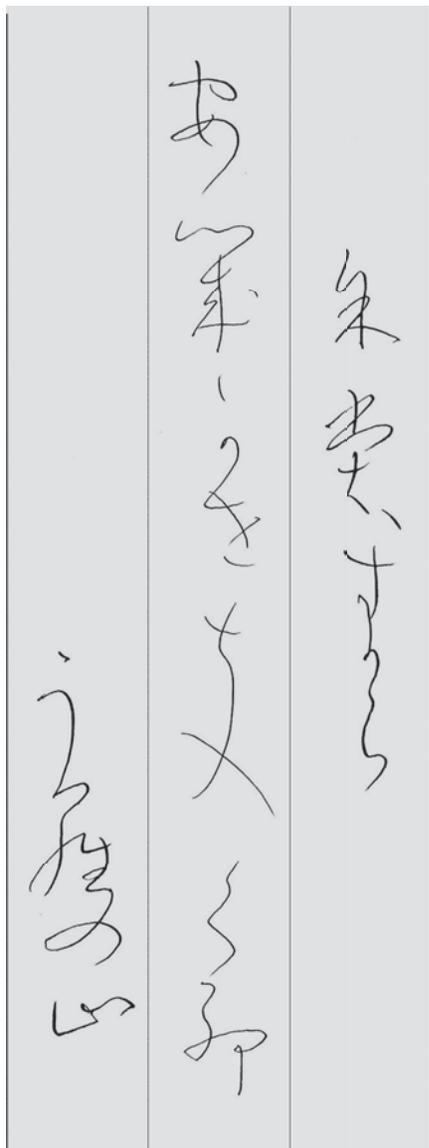
全てを学び終わる

▼教範・書範=行草または草書

▼師範=行書

準初段から六段まで

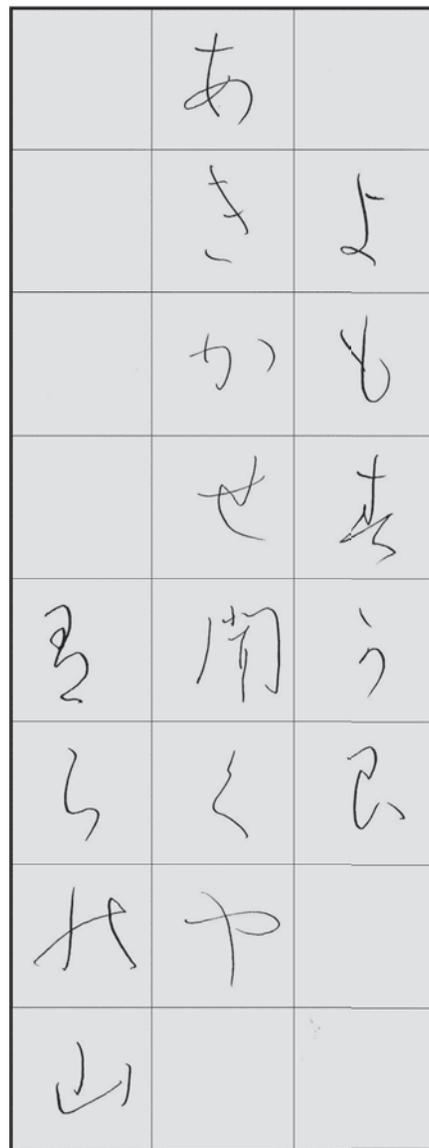
新入から1級まで



余 裳
よもすがら秋風聞くや裏の山
可 安 幾 可 世 文
耶 羅

春 可 良 あきかせ
よもすがら秋風聞くや裏の山
有 能

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

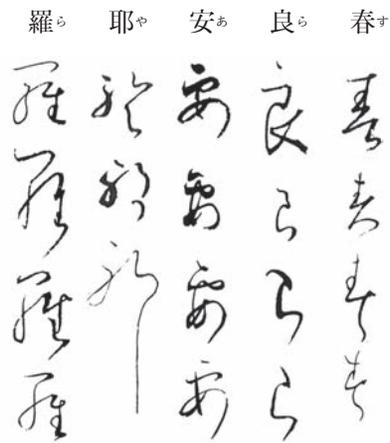
よもすがら秋風聞くや裏の山

(河合曾良)

〔句解〕一晩中眠りつけずに、裏山の木立の上を吹き渡る蕭々たる秋風の音を聞き明かした。

〔鑑賞〕師(松尾芭蕉)と別れたさびしさの真情の溢れた句で、〈秋風〉の季語がよく利いているし、〈裏の山〉も〈秋風〉とよく調和している。

〔古筆参考〕



〔解説〕仮名の最終画は、止めるより払う事の方が多い。その時、次の字への気脈を考えて書く。「支」は、大きくゆったりと書く。

◆12月課題予告

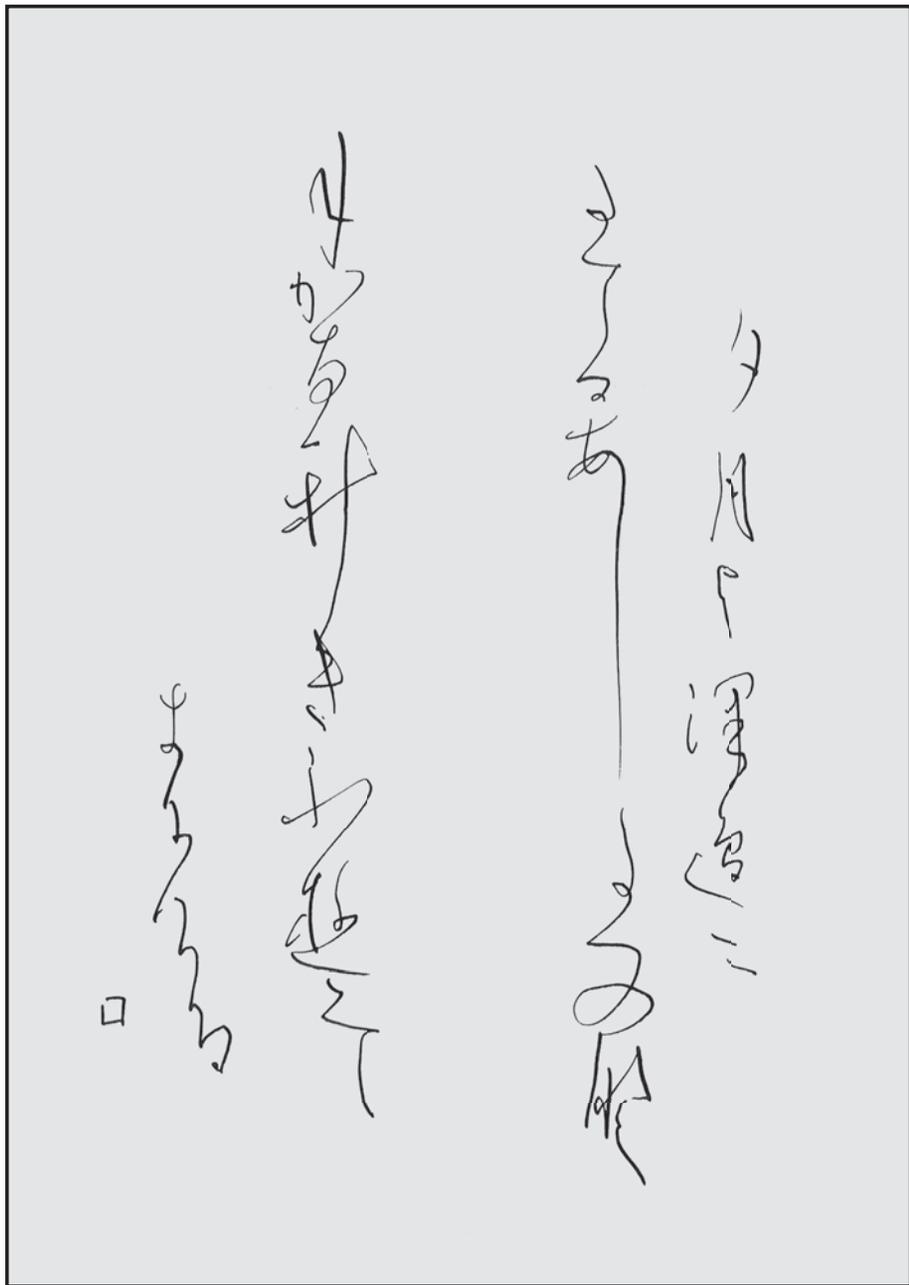
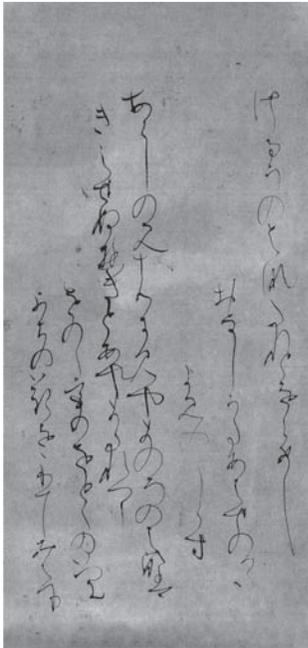
池の星またははらと時雨かな
(立花北枝)

締切り 十一月二十四日(必着)

築瀬舟香書

〔古筆参考〕

香紙切



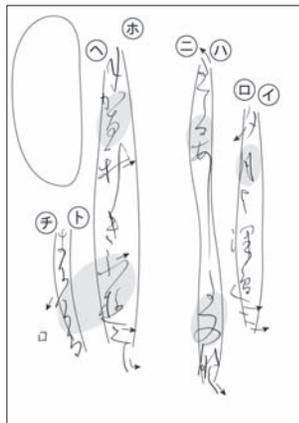
けるうのはな^{者那多}たれとを^多らまし
 おなじう^余たあ^者は^多せのう^多た
 よみ^見人^見し^見ら^見ず
 あらし^見のみ^見さ^見む^見き^見みや^見ま^見の^見う^見のは^見な^見は^見
 きえ^遊せぬ^遊ゆ^遊き^遊とあ^遊や^遊ま^遊た^遊れ^遊つ^遊
 をの^者宮^者のを^者と^者ゞ^者の^者い^者へ^者に^者
 ふ^利ち^利の^利花^利を^利り^利て^利み^利は^利べ^利り^利

夕月^与夜^二沢^多辺^多に^多た^多て^多る^多あ^多した^多づ^多の^多
 鳴^那く^那音^新悲^新し^新き^新冬^文ぞ^文き^文に^文ける^文

〔歌意〕夕月のもと、沢のほとりに
 立って鳴く鶴の声がいかにも哀切に響
 く季節、冬がやってきた。

〔出典〕金槐和歌集

〔解説〕



- ①と②、①と③、②と④、①と⑤、①と⑥、②と⑦、③と⑧、④と⑨、⑤と⑩、⑥と⑪、⑦と⑫、⑧と⑬、⑨と⑭、⑩と⑮、⑪と⑯、⑫と⑰、⑬と⑱、⑭と⑲、⑮と⑳、⑯と㉑、⑰と㉒、⑱と㉓、⑲と㉔、⑳と㉕、㉑と㉖、㉒と㉗、㉓と㉘、㉔と㉙、㉕と㉚、㉖と㉛、㉗と㉜、㉘と㉝、㉙と㉞、㉚と㉟、㉛と㊱、㉜と㊲、㉝と㊳、㉞と㊴、㉟と㊵、㊱と㊶、㊲と㊷、㊳と㊸、㊴と㊹、㊵と㊺、㊶と㊻、㊷と㊼、㊸と㊽、㊹と㊾、㊺と㊿、㊻と、㊼と、㊽と、㊾と、㊿と

- 余白(間) 大切。
- 密の動き大切。
- ・ 〳の方向は余白をしめる。
- ・ 一行の中の疎密、行のふくらみ、揺れ大切。

◆12月課題予告
 千鳥鳴くさほの川原の月きよみ
 衣手さむし夜や更けぬらむ

締切り 11月24日(必着)

美味しい料理を作るには、素材の良さを十分に知る事だと思えます。以前は料理が不得手だった私も、旬野菜の素晴らしさが分かる様になり、この頃では楽しんで作っています。食卓も笑顔が増えました。

美味しい料理を作るには、素材の良さを十分に知る事だと思えます。以前は料理が不得手だった私も、旬野菜の素晴らしさが分かる様になり、この頃では楽しんで作っています。食卓も笑顔が増えました。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

東京の歩行者天国は、ニューヨーク
五番街の例にならい始められた。

新潟県魚沼市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 11月24日(必着)



準初段から師範まで

新入から1級まで(楷書)

奥村暢之 臨

須田一葉 書

【出典】 集字聖教序 (672) 【筆者】 王羲之法書より集字

【読み】 飛塵も其の(葉を)汚す能わざるがごとし。

【読み】 霜意林に入ること多し

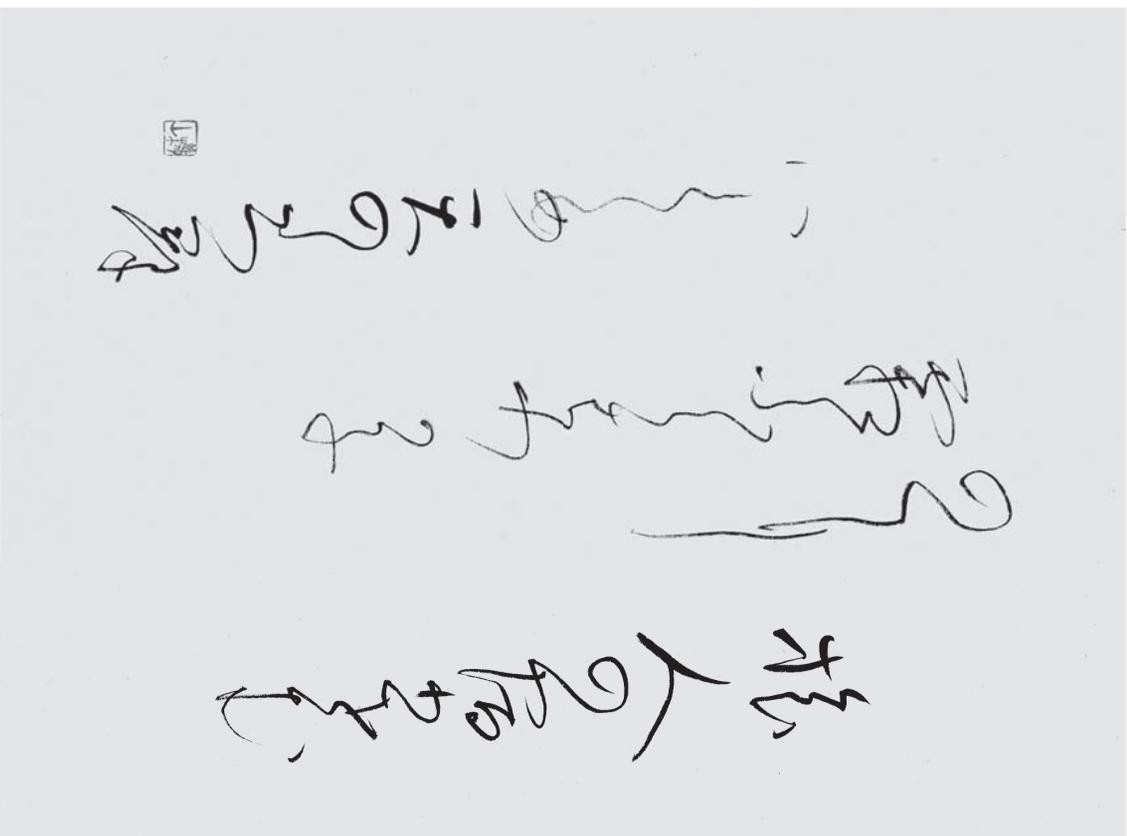
【大意】 秋深く霜が林に入り、樹々も色をつけている。

飛 塵 不 能 汚 其

飛塵不能汚其

一般部毛筆かな課題

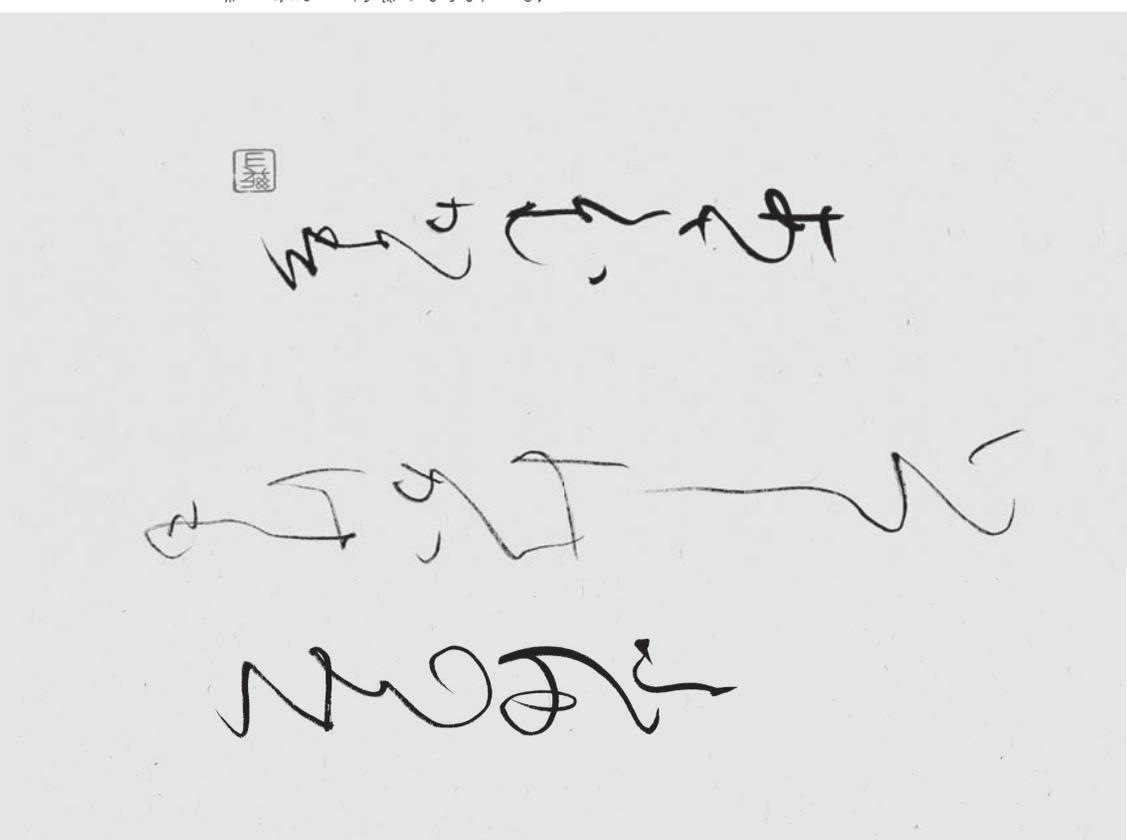
締切り 11月24日(必着)



旅人の宿り利世の耳せむ野に霜降らば
吾がわが羽はぐくめ天の鶴群たのつるぐらむ

【出典】(作者未詳)

【歌意】旅人が仮りの宿りをする野原に、もし霜が降りたなら羽を広げて我が子をいたわり包んでやっておくれ、空を飛ぶ鶴の群れよ。



冬の水ふゆの一枝の影いっしのかげも欺あまかずあま

【出典】中村卓田男なかもらひらんきたお

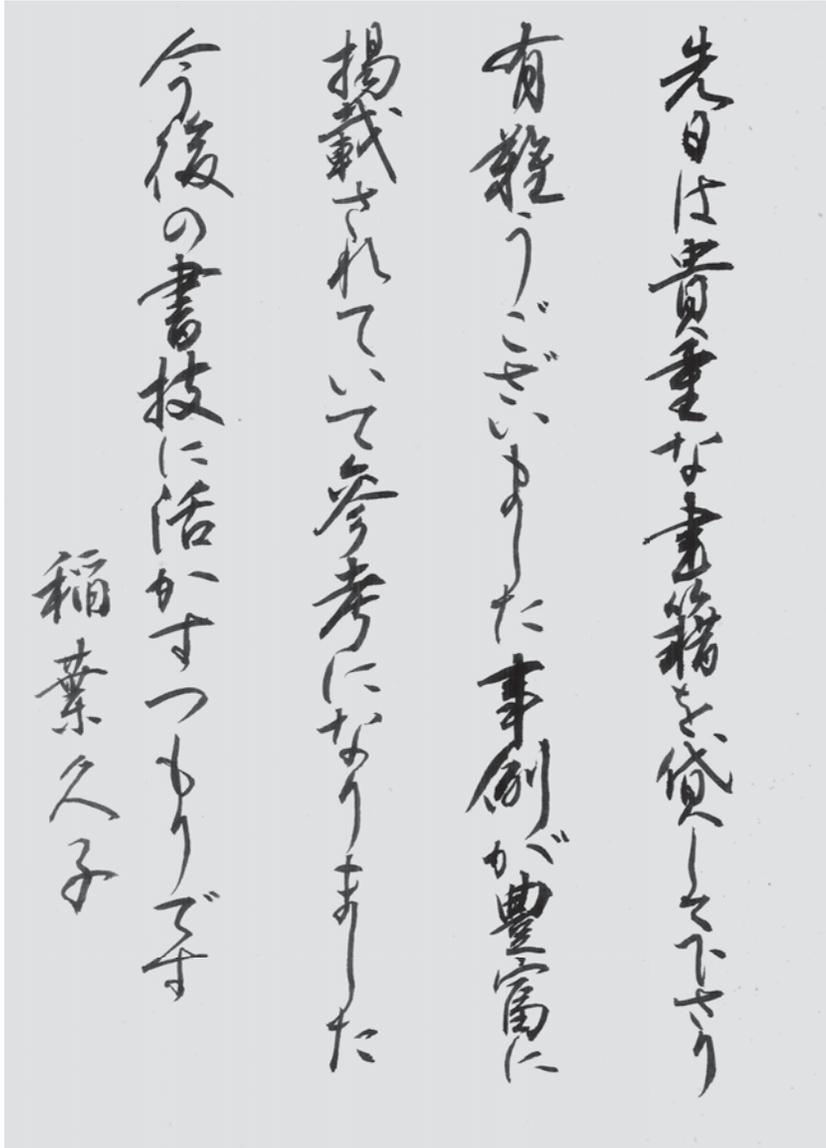
【句意】冬枯の木立の影が澄みきった水面に一枝も残さずに克明に映っている。

新入から1級まで

浅井機山先生書あさいきざんせんせい

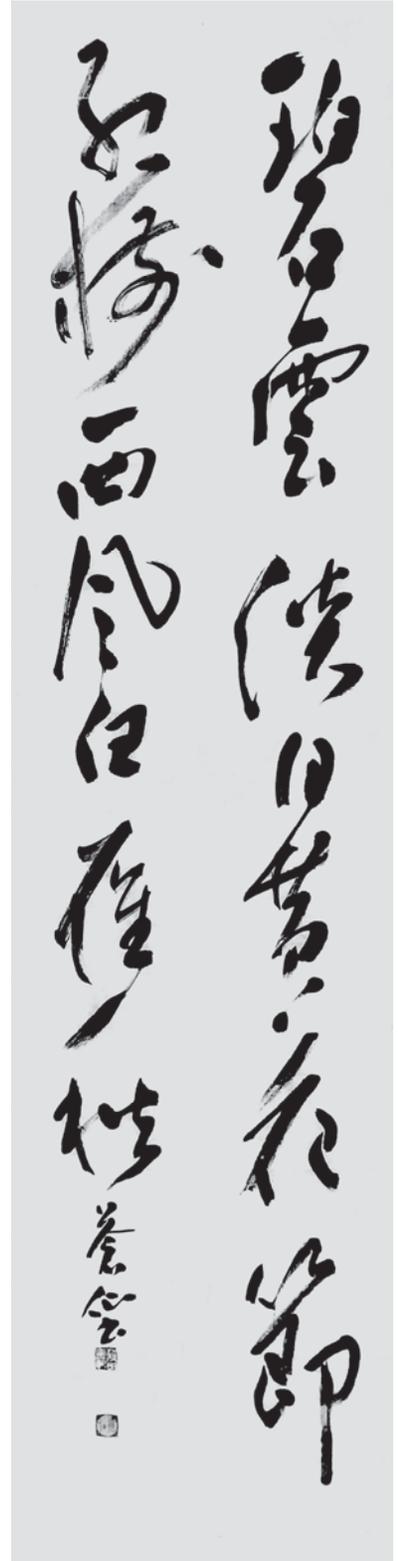
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 十一月二十四日 (必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

萩 田 蒼 仙 書

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔条幅・細字作品の出し方〕

・印で墨つぎしました。

(ご自分の氏名)

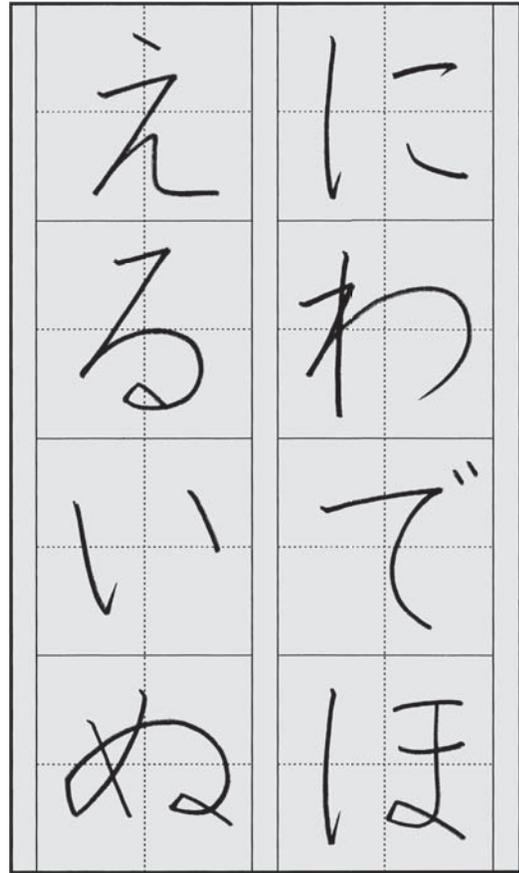
先日は貴重な書籍を貸して下さい有り難うございました。事例が豊富に掲載されていて参考になりました。今後の書技に活かすつもりです。

〔条幅解説〕 白を意識して字を小さくしました。さりとして余白に負けないようご留意下さい。小さくとも強いこと。疎密も大切です。

〔大意〕 青い雲、弱い日ざし、これは重陽菊花節。紅葉、西風、これは白雁の南に帰る秋。初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

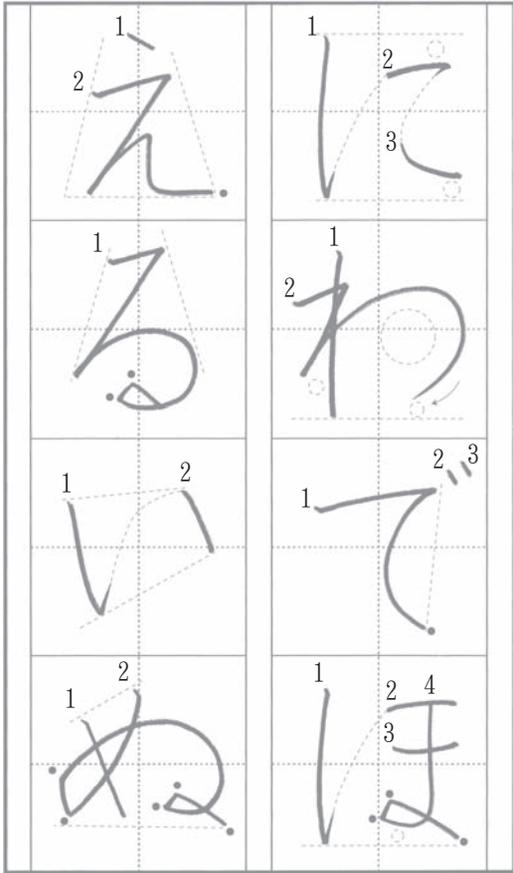
碧雲淡日黄花節
紅樹西風白雁秋

よ
う
年



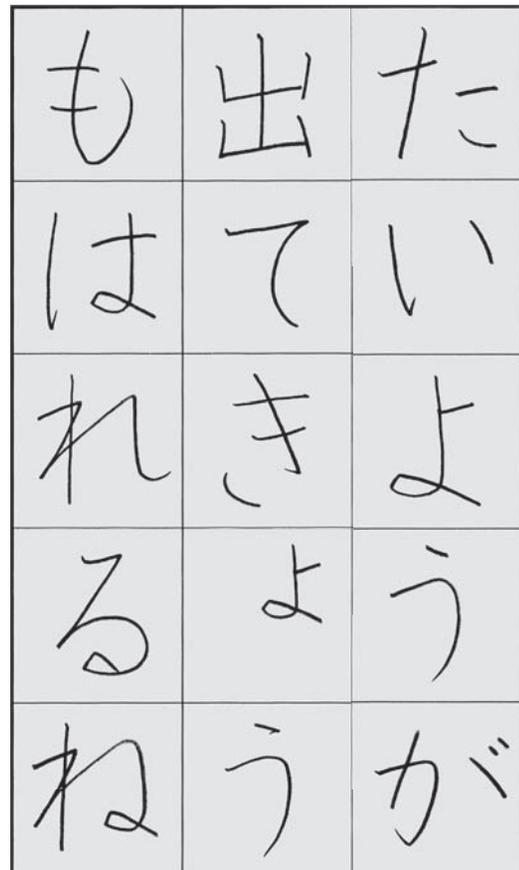
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかき)

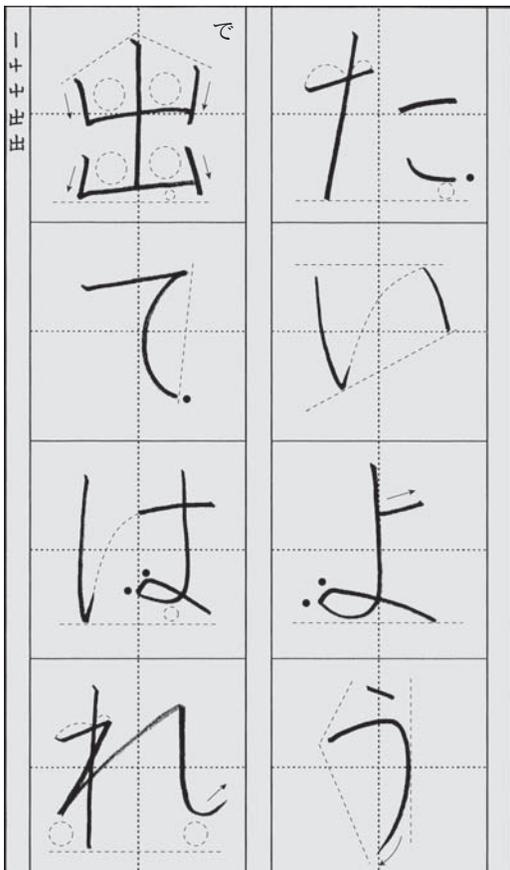
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入1級

準初段以上



幼年〜小三年まで
三宅容玉書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

ん	一ア五五	五	ゴ
食	た 一ア五五	目	モク
べ		ご	
た		は	

新入〜1級

ん	に	今
を	五	日
食	目	は
べ	ご	お
た	は	昼

小二年

準初段以上

と	ト 五音部	部	ハ
ぬ	ヌ 戸屋屋屋屋	屋	ヤ
り		で	
絵	エ 糸糸糸糸糸	妹	イモツト

新入〜1級

※部屋||単語としてこのように読みます。
(注)えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

て	ぬ	部
遊	り	屋
び	絵	で
ま	を	妹
す	し	と

小三年

準初段以上

〈用具 自由(黒色に限る)〉

て	改
見	札
送	口
る	ま

新入1級

小四年

ま	駅	お
て	の	父
見	改	さ
送	札	ん
る	口	を

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

館	試
移	合
動	体
	育

解説(よく見て習いましょう)

小五年

へ	合	バ
移	で	レ
動	体	ー
す	育	の
る	館	試

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

(全員)

〈用具 自由(黒色に限る)〉

整	防
高	火
層	設
	備

ととの(ウ) ポウ
カ
セツ
ビ

コウ
ソウ

防 火 設 備

解説(よく見て習いましょう)

マ	整	防
ン	つ	火
シ	た	設
ヨ	高	備
ン	層	の

小六年

(全員)

歩	確	左
道	認	右
を	し	を
渡	横	十
る	断	分

中二・三年

(楷書)

欠	日	合
か	発	唱
さ	声	部
な	練	は
い	習	毎

中一年

(楷書)

▼小三年以下の課題

すぎ 浦 けい 翠 書

よ	コ	小 ^こ	な	お
び	タ	犬 ^{いぬ}	か	じ
ま	ロ	の	の	い
す	ー	名 ^な	よ	さ
	と	前 ^{まえ}	い	ん
		は		と
				

◎お手本はえんぴつ使用



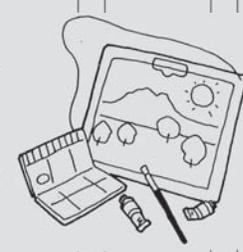
しめきり 11月24日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

おお さき すい しゅう 書
大 崎 水 愁

出 ^で	友 ^{とも}	始 ^{はじ}	市 ^し	今 ^{いま}
か	達 ^{たち}	ま	の	日 ^ひ
け	を	る	美 ^び	か
ま	さ	の	術 ^{じゆつ}	ら
す	そ	で	展 ^{てん}	
	い		が	



◎お手本はつけペン使用

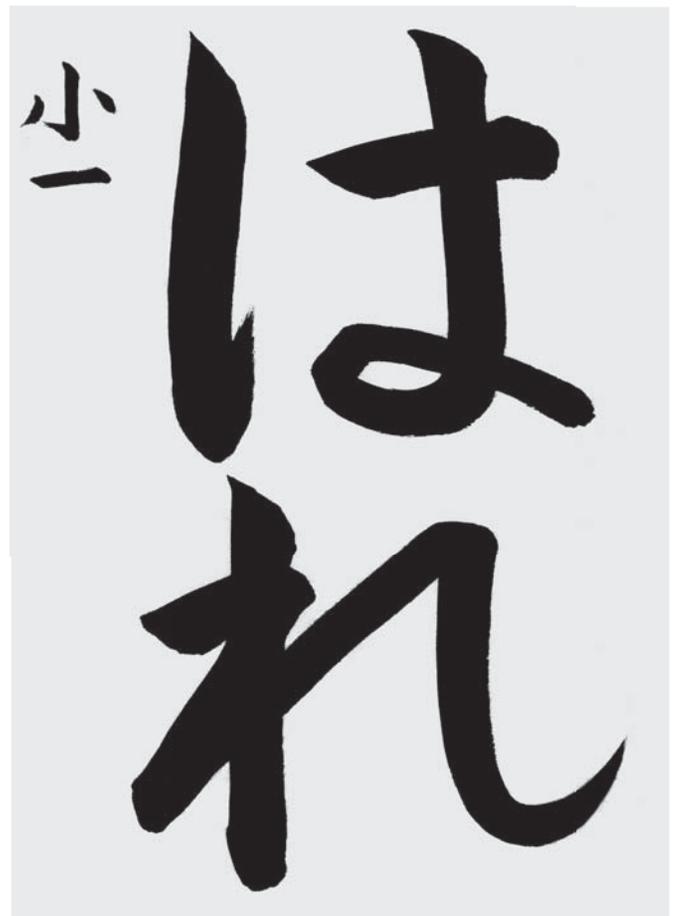
◇作品の出し方

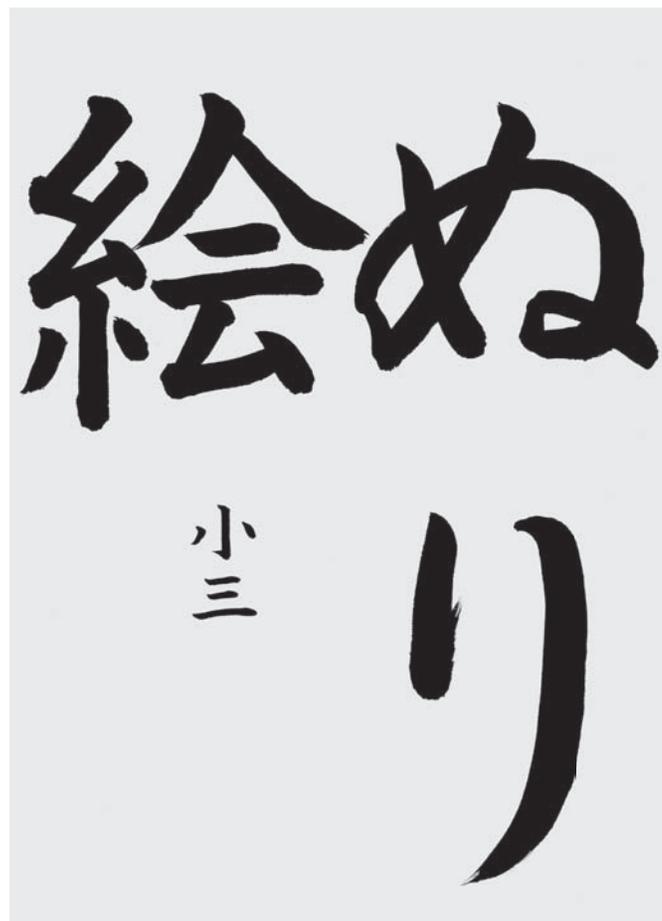
- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年
玉樹小華書





小三、小五年
水野香竹書

中二・三
 歩横
 道断

小六
 設防
 備火

小六・中二・三年

奥村暢之書

糸へんは幅をそろえる
 練

右上がりに
 設

断

備

歩

中心
 1 2 3 4 5
 発

書き順に注意

中一
 練発
 習声